早稲田大学　文学研究科
博士後期課程　入試問題の訂正内容

<一般入試>

【日本語日本文学コース】

●問題冊子8ページ　：近代2　設問文2行目

（誤）

各10点

（正）

各15点

以上

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦書）

【答案作成上の注意事項】

1、解答用紙の最初に記されている時代・分野のうち、自分の選択したものを〇で囲むこと。

2、「近代」以外の時代・分野の答案は、縦枡目（表裏）の共通解答用紙に記すこと。

3、「近代」は、解答用紙が別になっているので、それを使用すること。

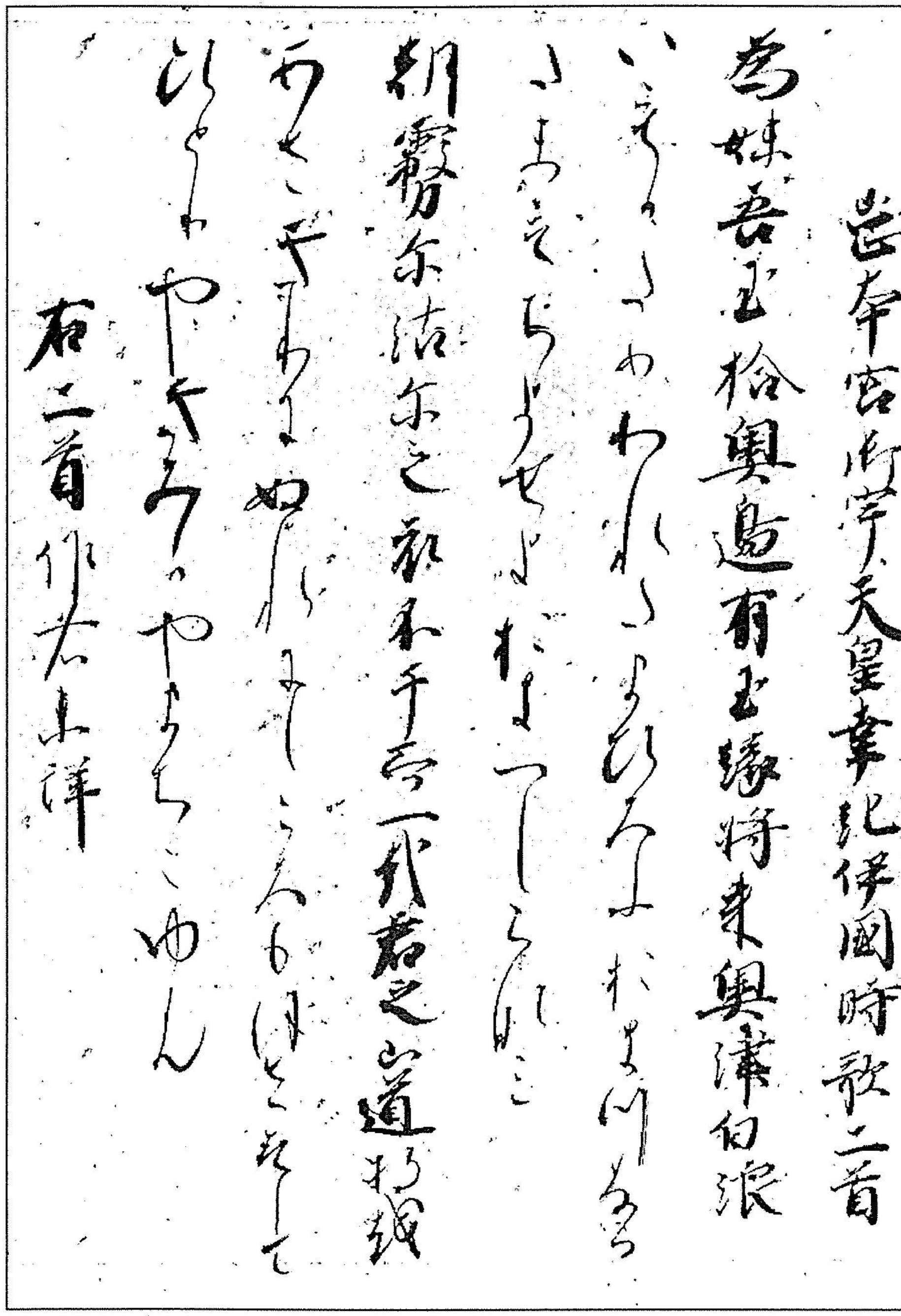
＊各時代・分野の試験問題は、左掲のナンバーの問題用紙に記されている。

上代	2
中古散文	3
中古韻文・中世韻文	4
中世散文	5
近世	6
近代	7〜10
日本語学	11〜14
和漢比較文学	15

上代

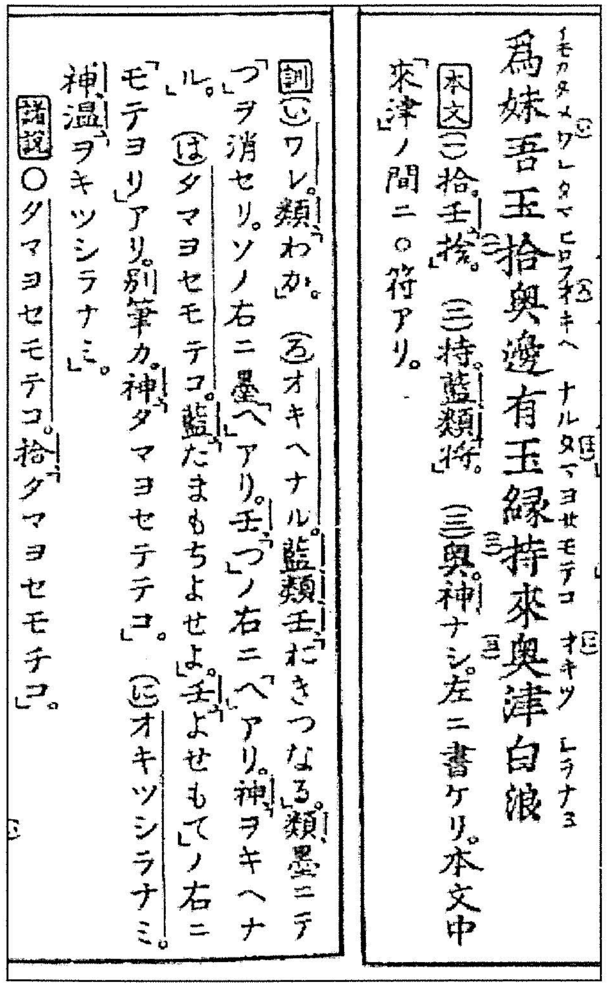
二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題
【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦　書）

問　次に掲げる画像Aは『万葉集』のある写本の一部である。画像Aについて、後の問一～三に答えよ。


岳本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首
為妹吾玉拾奥邊有玉縁持来奥津白浪
朝霧尓沾尓之衣不干而一哉君之山道将越
右二首作者未詳

画像A

1. ※ページ下部に出典を追記しております。


爲妹吾玉拾奥邊有玉縁持來奥津白浪

本文 (一)拾。「玉拾」。(二)持。「藍類將」。(三)奥。「神」ナシ。左ニ書ケリ。本文中「來津」ノ間ニ○符アリ。

訓 (い)ワレ。「類わか」。(ろ)オキヘナル。「藍類玉」「たきつなる」。類。墨ニテ「ヲ消セリ。ソノ右ニ墨「ヘ」アリ。「玉」「つ」ノ右ニ「ヘ」アリ。「神」ヲキヘナル」。(は)タマヨセモテコ。「藍」「たまもちよせよ」。「玉」「よせもて」ノ右ニ「モテヨリ」アリ。別筆カ。「神」タマヨセテテコ」。(に)オキツシラナミ。「神」「温」「ヲキツシラナミ」。

諸説 ○タマヨセモテコ。「拾」「タマヨセモチコ」。

画像B

2. ※ページ下部に出典を追記しております。

問一　画像Aを正確に翻字せよ。改行は画像のとおりとし、漢字・仮名は現在通行の字体を用いること。

問二　画像Bは画像A内の最初の和歌に対する校本万葉集の記述である。この記述によれば、画像Aは万葉集諸本のうち、いずれの写本と考えられるか。その写本の一般的な呼称を記せ。

問三　画像Aの内容に触れつつ「万葉集の羇旅歌」について論述せよ。

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
1. 京都国立博物館所蔵
2.『校本万葉集』佐佐木信綱他　岩波書店　1931年

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦）書

中古散文

左は、『源氏物語』の注釈書『花屋抄』の一節である。次の問いに答えよ。

（1）左の全文を改行等そのままに翻字し、適宜必要な箇所に句読点を加えよ。振り仮名は、右傍・左傍ともにすべて翻字すること。また、濁点については、元から付けられているものをそのとおりに翻字するとともに、本行本文もふくめて必要な箇所に適宜加えること。

（2）『花屋抄』について説明せよ。

（3）傍線部Xについて説明せよ。

（4）左は、「帚木」巻、「雨夜の品定め」の終盤における会話文（左馬頭ほかの発言か）に関する注記である。この注記を参考にした上で、当該箇所において示されている女性論を具体的に記せ。

[illegible]

3/15

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
ノートルダム清心女子大学附属図書館特殊文庫所蔵『源氏物語花屋抄』

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦）書

中古韻文・中世韻文

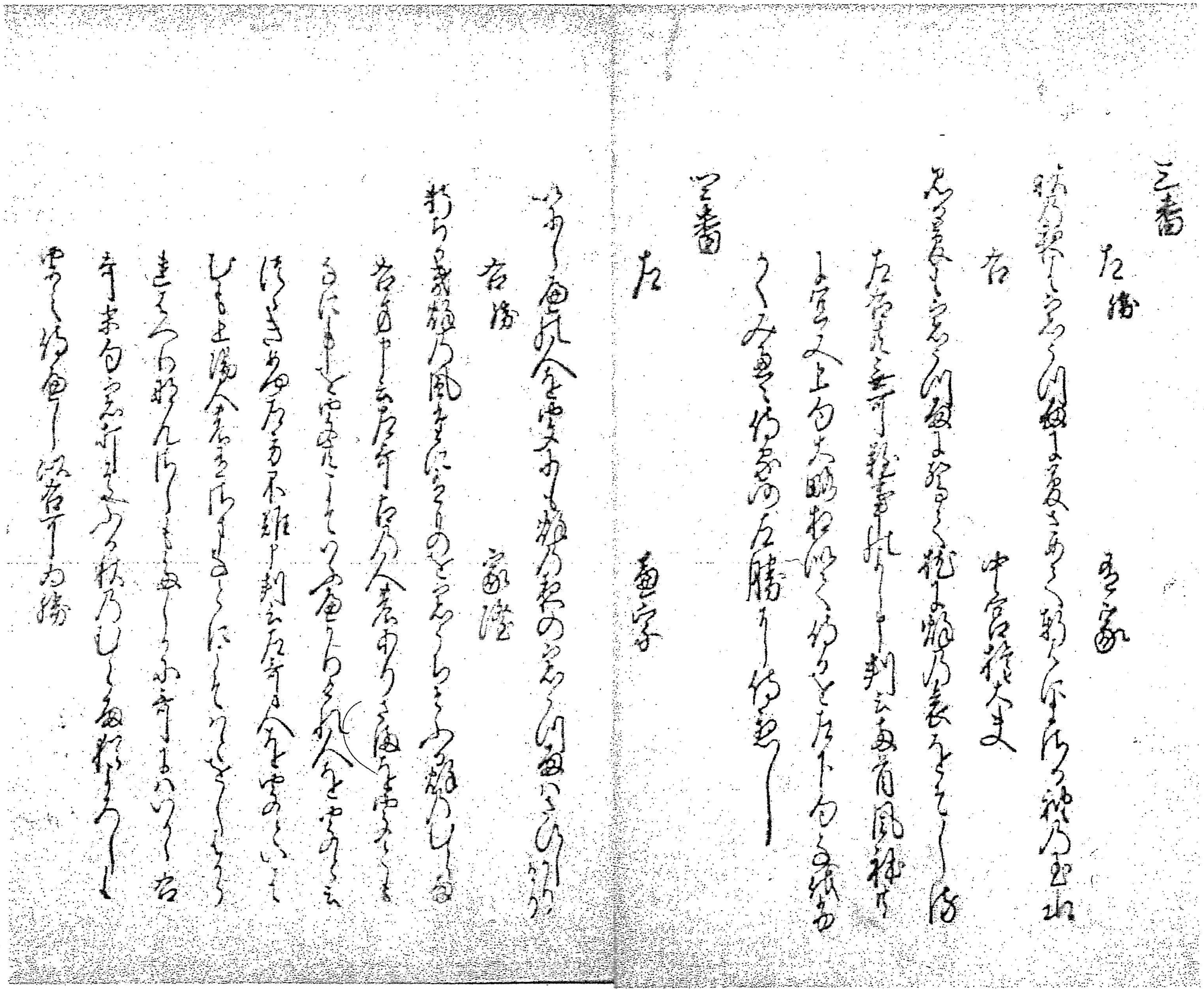
左は、早稲田大学図書館蔵『六百番歌合』版本の、秋雨題結番の一部である。次の問い（1）（2）（3）（4）に答えよ。

（1）この資料を、改行等すべてそのままに翻字せよ。濁点や句読点を付す必要はない。

（2）三番右歌を正確に現代語訳せよ。

（3）四番右歌の作者について知るところを述べよ。

（4）この四首には、共通する表現技巧が用いられている。その技巧の呼称を示し、ここでの表現効果について、できれば具体的な作品名や人名をあげつつ説明せよ。



※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
早稲田大学図書館所蔵

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

中世散文

（一）次の『平家物語』の奥書を翻字し、この伝本について説明せよ。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※ページ下部に出典を追記しております。

（二）次の全文を翻字せよ。なお、旧字・異体字は通行字体に改めること。

※この部分は、著作権の関係により掲載ができません。

※ページ下部に出典を追記しております。

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
大東急記念文庫所蔵

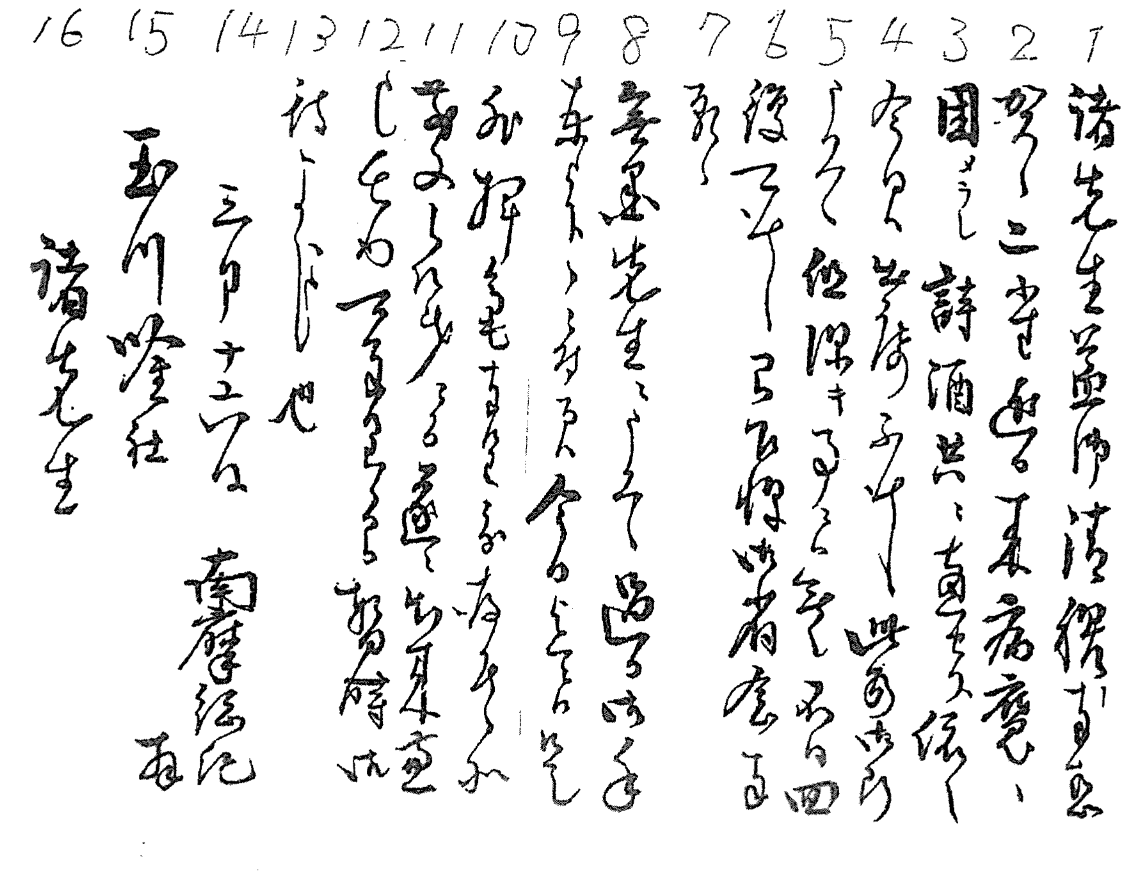
近世

一、次の漢文と漢詩（七言絶句）とは、『源氏物語』「澪標」の巻を、近世末期の徳川将軍家の侍講が論評したものである。これを読んで、全文を現代日本語に訳して、解答欄に記せ。

恩日一炤、舊怨始明。好爵駢臻、殊榮加故。正是否往泰來之日、曾爲凶退元登之時。嗚呼有罪而謫、無故而免。免則天應人悦。風和雨若。天地間豈有此等錯戻之事哉。稗官野乘、難以常理論。

松緑沙明古廟前、賽神一隊錦袍鮮。波間認得空無語、又趁回潮下畫船。

二、次の書翰文の影印を各行の冒頭に1から16のアラビア数字を記して、各行影印のままの字数で翻字して、解答欄に記せ、



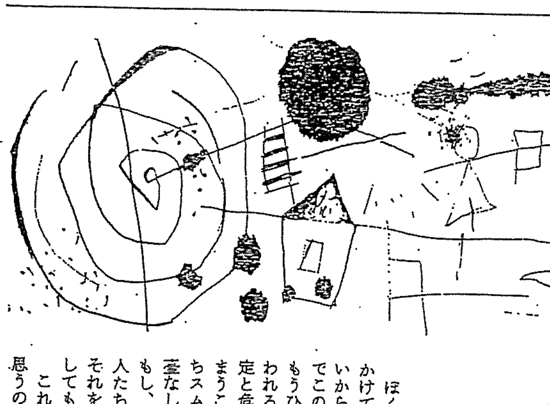
二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦　書）

近代　次の1～3の問いに答えよ。

1、次の資料Aは、大江健三郎の短編小説「空の怪物アグイー」（『新潮』一九六四年一月号）の冒頭、資料Bは長編小説『個人的な体験』（新潮社、一九六四年八月）の原稿の冒頭、そして資料Cはその初版本の冒頭である。これらの資料の関係について論述せよ。また、一般に短編小説から長編化した作品について、具体例を挙げて考察せよ。（２０点）

資料A



空の怪物アグイー

大　江　健　三　郎

ぼくは自分の部屋に獨りでいるとき、海賊のように黒い布で右眼にマスクをかけている。それは、ぼくの右側の眼が、外觀はともかく實はほとんど見えないからだ。といつて、まつたく見えないのではない。したがつて、ふたつの眼でこの世界を見ようとすると、ひとつの明るく輝いて、くつきりした世界に、もうひとつの、ほの暗く翳つて、あいまいな世界が、ぴつたりかさなつてあらわれるのである。そのために、ぼくは完全鋪装の道をあるいているうちに不安定と危險の感覺におびやかされて、ドブを出たドブ鼠のように立ちすくんでしまうことがあるし、快活な友人の顔に不幸と疲勞のかげりを見出して、たちまちスムーズな日常茶飯の會話を、困難な澁滯感につきまとわれた吃りの毒で、臺なしにしてしまうことがある。しかし、やがてぼくはこれに慣れるだろう。もし、慣れることができないとしたら、ぼくは部屋の中だけでなく、街や、友人たちの前でも、黒い眼帯をかける決心をするつもりだ。見知らぬ他人たちがそれを古めかしい冗談だと憫笑して、ぼくをふりかえりながら、すれちがうとしても、それにいちいち苛だつような年齢でもない。

これからぼくは、自分の生涯ではじめて金を稼いだ體驗をものがたりたいと思うのだが、それを自分のあわれな右眼についてかたることからはじめた理由は、ぼくのその眼に暴力的なアクシデントがおこつたとき、不意に、なんの脈絡もなく、ぼくの心に、あの十年前の體驗が喚起されたからである。その時ぼくの心に燃えたつてぼく自身を束縛しはじめた憎惡から、ぼくはそれを思いだすことで自由になつたのだつた。そのアクシデントについても、ぼくは最後にかたるだろう。

十年前、ぼくがあの體驗をしたとき、ぼくはふたつの視力二・〇の眼をもつていた。そしていまぼくはその片方をだめにしてしまつた。《時間》は推移したのだ、石礫にうたれてつぶれた眼球を踏み臺にしてジャンプした《時間》。ぼくがはじめてあのセンチメンタルな狂人に會つたとき、ぼくは《時間》の意味をごく子供らしいやり方でしか理解していなかつた。背後の《時間》に見つめられ、前方の《時間》にも待ちぶせされるという苛酷な感覺をもつたことはまだなかつた。

十年前ぼくは十八歳で50kg、170cmだつた、ぼくは大學に入つたばかりで、アルバイトを探していた。ぼくはまだ十分にはフランス語を讀めなかつたにもかかわらず、二冊つづきの布表紙の《魅せられたる魂》を買おうとしていたのである。それもロシア語の前書きのついたモスクワ版で。前書きのみならず脚註も奥づけもスラブ・アルファベットなら、本文のフランス語も、文字と文字のあいだに細い絲切れのような筋がいつぱい刷りだされてしまつている、奇妙な版だつたが、それでもフランス版にくらべてずつと頑丈で立派で、ずつと安かつた。それを東歐系の本の輸入洋書店で見つけたぼくは、ロマン・ローランにいささかの興味もよせていなかつたのに、その二冊の本を自分のものにすべく走りまわりはじめたわけだつた。この時分、ぼくはたびたびおかしな情熱の擒になつた。自分が十分に激しくその情熱にとりつかれてさえいればとやかく思いわずらうことはないと感じていたわけである。

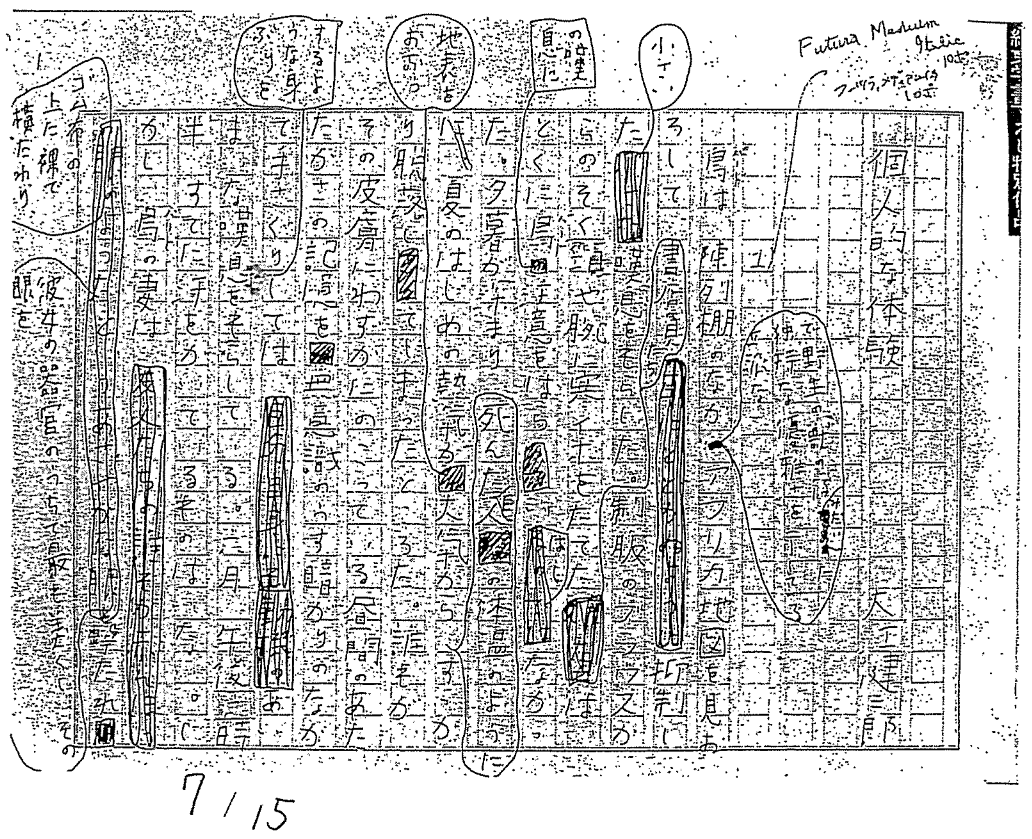
ぼくはまだ大學に入學したばかりで學生アルバイト斡旋所に登錄していなかつたので知人のところをまわつて仕事を探した。そして伯父に紹介されたある銀行家から、ひとつの仕事を斡旋されることになつたのだつた。銀行家は、ぼくに、

「きみは《ハーヴェイ》という映畫を見たかね？」といつた。

「見ました」とぼくは生涯ではじめて他人から雇傭されようとする人間らしくひかえめながらも獻身的な微笑をうかべるべく試みていつた。《ハーヴェイ》というのは、ジェームス・スチュアートが、熊ほどにも大きい架空のウサギと一緒に暮している男に扮した映畫だつた、ぼくはそれを見て、死ぬほど笑つたものだ。

「うちの息子が最近、やはりあいう風に怪物にとりつかれるんだよ。それで仕事もやめて蟄居している。時どきかれを外出させたいんだがその附添いがいなくてね。きみが

資料B



資料C

1

鳥（バード）は、野生の鹿のようにも昂然と優雅に陳列棚におさまっている、立派なアフリカ地図を見おろして、抑制した小さい嘆息をもらした。制服のブラウスからのぞく頸や腕に寒イボをたてた書店員たちは、とくに鳥（バード）の嘆息に注意をはらいはしなかった。夕暮が深まり、地表をおおう大気から、死んだ巨人の体温のように、夏のはじめの熱気がすっかり脱落してしまったところだ。誰もが、その皮膚にわずかにのこっている昼間のあたたかさの記憶を無意識のうす暗がりのなかで手さぐりする身ぶりをしては、あいまいな嘆息をもらしている。六月、午後六時半、市街にはすでに汗をかいているものはいない。しかし、鳥（バード）の妻は、ゴム布の上に裸で横たわり、撃たれて落下する雉子のように眼を硬くつむって、体じゅうのありとある汗穴から、厖大な数の汗粒をにじみださせ、痛みと不安と期待に呻き声をあげているだろう。

3

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦　書）

2、次に掲げる四つの資料について、作品や原稿の場合は作者名・作品名、雑誌の場合は雑誌名・主要執筆者を答えた上で、作品や原稿についてはその内容や執筆の背景、発表媒体との関わりなど、雑誌の場合は文学史上の意義などを述べよ。（各１０点）

①

閨秀小説

目次

美人不忍池を望む……渡邊省亭
はしがき……中島歌子
萩桔梗……花圃女史
わすれがたみ……若松賤子
十三夜……一葉女史
黒眼鏡……瀬氷女史
暮ゆく秋……大塚楠緒女
村時雨……磐花女史
片時雨……ゆかり女
しろばら……稲舟女史
手箱の内……藤島雪子
刷毛彩色……石榑わか子
名譽夫人……小金井喜美子
やみ夜……なつ子
閨秀小説の奥に……竹屋雅子

小金井喜美子君

若松賤子君
樋口一葉君

②

澁江抽齋

森林太郎

その一

三十七年如一瞬。學醫傳業薄才伸。榮枯窮達任天命。安樂換錢不患貧。これは澁江抽齋の述志の詩である。想ふに天保十二年の暮に作つたものであらう。弘前の城主津輕順承の定府の醫官で、當時近習詰になつてゐた。しかし隱居附にせられて、主に柳島にあつた信順の館へ出仕することになつてゐた。父允成が致仕して、家督相續をしてから十九年、母岩田氏縫を喪つてから十二年、父を失つてから四年になつてゐる。三度目の妻岡西氏徳と、長男恒善、長女純、二男優善とが家族で、五人暮しである。主人が三十七、妻が三十二、長男が十六、長女が十一、二男が七つである。邸は神田お玉が池、辨慶橋の邊にあつた。知行は三百石である。しかし抽齋は心を潜めて古代の醫書を讀むことが好で、技を售らうと云ふ念がないから、知行より外の收入は殆ど無かつただらう。只津輕家の祕方一粒金丹と云ふものを製して賣ることを許されてゐたので、若干の利益はあつた。抽齋は自ら奉ずること極めて薄い人であつた。酒は全く飲まなかつたが、四年前に先代の藩主信順に扈隨して弘前に往つて、翌年まで寒國にゐたので、晩酌をするやうになつた。煙草は終生喫まなかつた。遊山などもしない。時々採藥に小旅行をする位に過ぎない。只好劇家で劇場には屢出入したが、それも同好の人々と一しよに平土間を買つて行くことに極めてゐた。此連中を周茂叔連と稱へたのは、蓮を愛すると云ふ意味であつたさうである。

抽齋は金を何に費やしたか。恐らくは書を購ふと客を養ふとの二つの外に出でなかつただらう。澁江家は代々學醫であつたから、父祖の手澤を存じてゐる書籍が少くなかつただらうが、現に經籍訪古志に載つてゐる書目を見ても、抽齋が書を買ふために貲を惜まなかつたことは想ひ遣られる。抽齋の家には食客が絶えなかつた。少いときは二三人、多いときは十餘人だつたさうである。大抵諸生の中で、志があり才があつて自ら給せざるものを選んで、寄食を許してゐたのだらう。

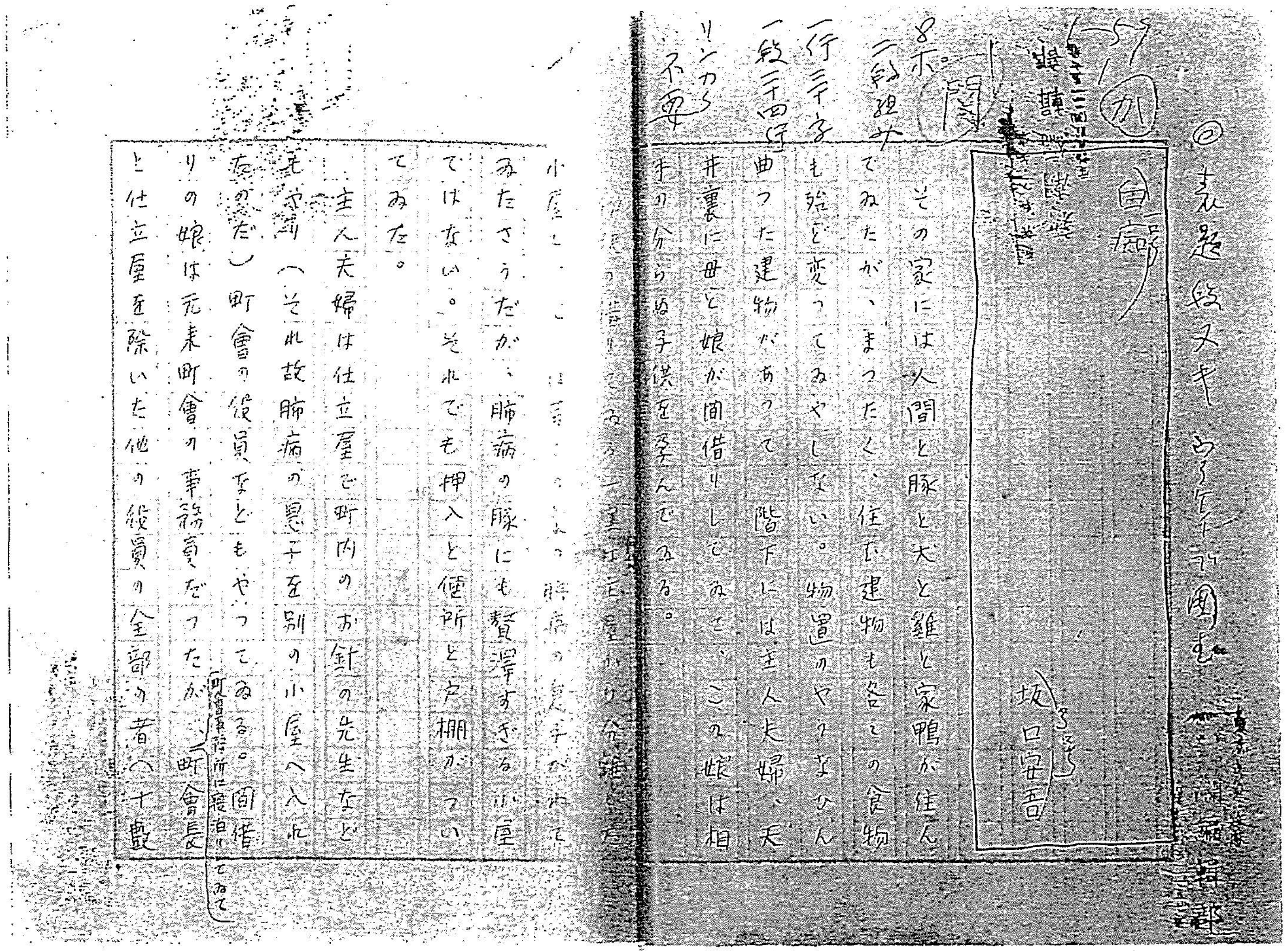
抽齋は詩に其志を言つてゐる。其貧が奈何なる程度のものであつたかと云ふことは、略以上の事實から推測することが出來る。此詩を瞥見すれば、抽齋は其貧に安んじて、自家の材能を父祖傳來の醫業の上に施してゐたかとも思はれよう。しかし私は抽齋の不平が二十八字の底に隱されてあるのを見ずにはゐられない。試みに看るが好い。一瞬の如くに過ぎ去つた四十年足らずの月日を顧みた第一の句は、第二の薄才伸を以て妥に承けられる筈がない。伸ると云ふのは反語でなくてはならない。老驥櫪に伏すれども、志千里に在りと云ふ意が此中に藏せられてゐる。第三も亦同じ事である。作者は天命に任せるとは云つてゐるが、意を得ぬ窮達に縛つてゐるのではなさゝうである。さて第四に至つて、作者は其貧を患へずに、安樂を得てゐると云つてゐる。これも反語であらうか。いや。さうではない。久しく修養を積んで、内に恃む所のある作者は、身を困苦の中に屈してゐて、志は未だ伸びないでも、こゝに安樂を得てゐたのであらう。

8/15

③

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
TOPPANホールディングス株式会社　印刷博物館所蔵

④



白痴　坂口安吾

その家には人間と豚と犬と雞と家鴨が住んでゐたが、まつたく、住む建物も各々の食物も殆ど変つてゐやしない。物置のやうなひん曲つた建物があつて、階下には主人夫婦、天井裏に母と娘が間借りしてゐて、この娘は相手の分らぬ子供を孕んでゐる。

……小屋で、ここは昔この家の肺病の息子が寝てゐたさうだが、肺病の豚にも贅澤すぎる小屋ではない。それでも押入と便所と戸棚がついてゐた。

主人夫婦は仕立屋で町内のお針の先生などもやり（それ故肺病の息子を別の小屋へ入れたのだ）町會の役員などもやつてゐる。間借りの娘は元来町會の事務員だつたが、（町會事務所に寝泊りしてゐて）町會長と仕立屋を除いた他の役員の全部の者（十數

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
資料提供：新潟市「安吾 風の館」事業室

3、次の文章はベネディクト・アンダーソン『増補［第二版］想像の共同体――ナショナリズムの起源と流行』（原著、*Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, Verso, 1983, 2nd edition, 1991、白石さや・白石隆訳、NTT出版、一九九七）の一節である。ここに記されたアンダーソンの考えは日本近代文学の歴史を考察する際にどのように展開することができるか。できるだけあなたの研究対象、研究テーマに関係づけながら、具体的事例を示しながら論述しなさい。ナショナリズム、国民、小説の三つのキイワードを必ず用いること。（２０点）

我々自身のもつ同時性の観念は、長期にわたって形成されてきたもので、その成立は確実に世俗科学の発展と結びついたものであったが、この成立の過程についてはなお十分に研究されているとは言い難い。とはいえ、この観念は、ナショナリズムの成立にとって決定的な重要性をもつので、これを十分に考察することなしに、ナショナリズムのあいまいな起源を探査することは難しい。中世の時間軸に沿った同時性の観念にとって代わったのは、再びベンヤミンの言葉を借りるならば、「均質で空虚な時間」の観念であり、そこでは、同時性は、横断的で、時間軸と交叉し、予兆とその成就によってではなく、時間的偶然によって特徴付けられ、時計と暦によって計られるものとなった。(34)

こうした変容が国民という想像の共同体の誕生にとってなぜかくも重要なのか。これは、一八世紀ヨーロッパにはじめて開花した二つの想像の様式、小説と新聞、の基本構造を考察することで明らかとなろう。(35) というのは、これらの様式こそ、国民という想像の共同体の性質を「表示」する技術的手段を提供したからである。

まずはじめに、古風な小説の構造、バルザックの名作だけでなく、安手の三ドル小説にも典型的にみられる構造を考えよう。この構造は明らかに「均質で空虚な時間」における同時性提示の工夫であり、それは、「この間（かん）」という言葉についての複雑な注釈ともいえる。例として、単純な小説の筋立ての一部分を取り上げてみよう。ここでは男（A）には妻（B）と愛人（C）がおり、愛人には別に情夫（D）がいる。するとこの話における時間表は次のようなものと想定できる。

時間	I	II	III
事件	AがBと口論をする	AがCに電話をする	Dがバーで酔っぱらう
	CとDは情事をする	Bは買物をする	AはBと家で食事をする
		Dは玉突きをする	Cは不吉な夢をみる

この時間連鎖のなかで、AとDが一度も出会わないことに注意されたい。いやそれどころか、Cがうまくやっていれば、AとDはたがいの存在さえ知らないでいるかもしれない。(36) それでは、AとDを実際に関係付けているのはなにか。これは二つの相互補完的な概念によっている。第一に、かれらは「社会」（ウェセックス、リューベック、ロスアンジェルス）にはめ込まれている。(四) これらの社会はがっちりと安定した現実性をもつ社会学的実体であり、したがってその住民（AとD）は、たがいに知り合うこともなく通りですれ違い、それでいてなお、たがいに関連しあっていると描写することができる。(37)

第二に、AとDは全知の読者の頭の中にはめ込まれている。読者だけが、さながら神のごとく、AがCに電話し、Bが買物をし、Dが玉突きするのを、すべて同時に眺めることができる。これらすべての行為が、時計と暦の上で同じ時間に、しかし、おたがいほとんど知らないかもしれぬ行為者によって行われているということ、このことは、著者が読者の頭の中に浮かび上がらせた想像の世界の新しさを示している。(38)

社会的有機体が均質で空虚な時間のなかを暦に従って移動していくという観念は、国民の観念とまったくよく似ている。国民もまた着々と歴史を下降し（あるいは上昇し）動いていく堅固な共同体と観念される。(39) ひとりのアメリカ人は、二億四千万余のアメリカ人同胞のうち、ほんの一握りの人以外、一生のうちで会うことも、名前を知ることもないだろう。まして彼には、あるとき、かれらが一体何をしようとしているのか、そんなことは知るよしもない。しかし、それでいて、彼は、アメリカ人のゆるぎない、匿名の、同時的な活動についてまったく確信している。

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
出版元（有）書籍工房早山　1997

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題
【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

日本語学

日本語学を専攻する者は、次の**一・二・三**のいずれか一題を選択して解答せよ。

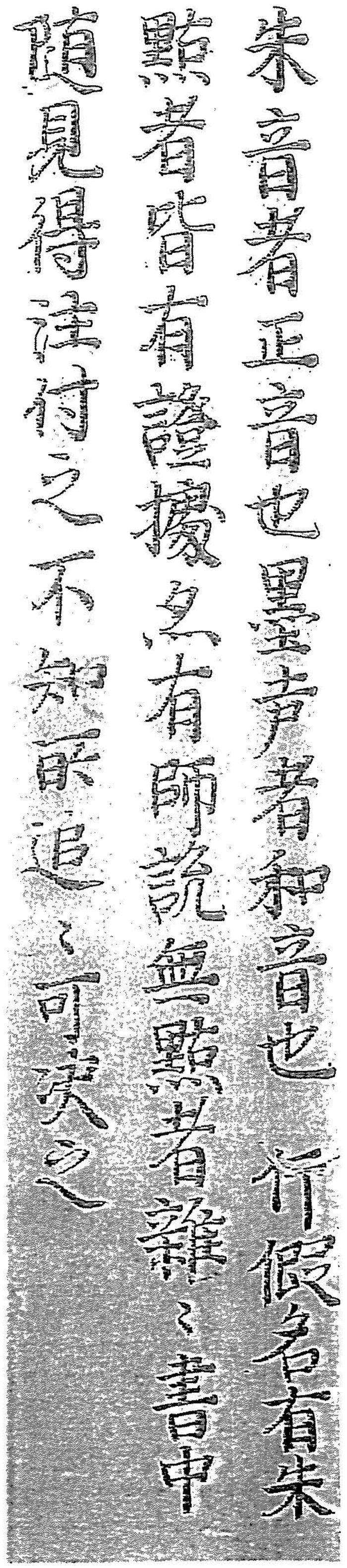
一　左に掲げたものは観智院本『類聚名義抄』篇目に記された凡例の部分（A）と本文三箇所（B）である。これについて以下の問いのすべてに答えよ。

（1）『類聚名義抄』について知るところを簡潔に述べよ。

（2）Aの内容を、Bから例をあげて説明せよ。

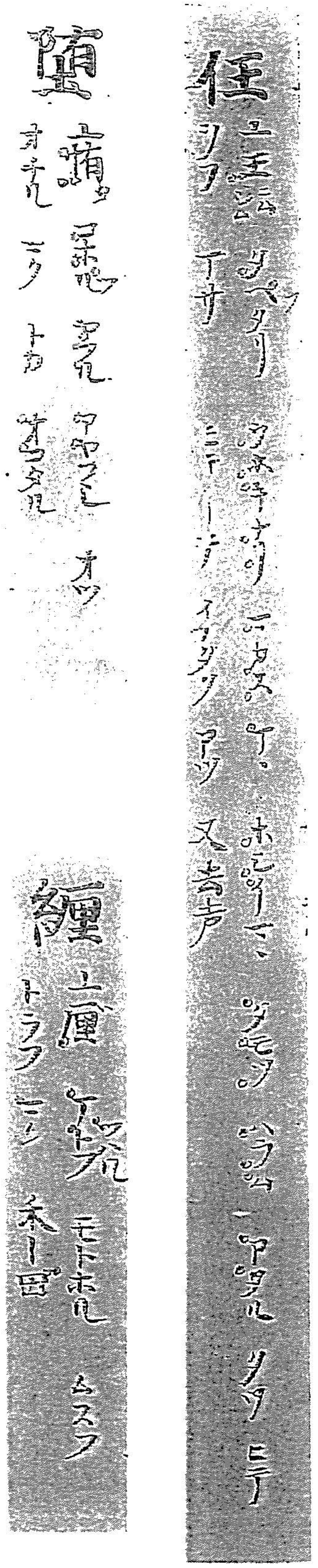
（3）Bの内容を、日本語アクセント史または日本漢字音史の観点から（いずれか一方でよい）説明せよ。

A



朱音者正音也墨声者和音也　行假名有朱點者皆有證據名有師説無點者雜々書中随見得注付之不知所追々可决之

B



任　音壬 … 又去声

纒　音廛

堕　音惰

11/15

注　Bの声点は朱点である。ただし「堕」字の注文「惰」の左裾にある双点は墨圏点、「纒」字の注文「廛」の右肩にある双点は墨星点である。そのほか「任」字の注文にある「シム」（「音壬」の左下）、「フ」（「ヘ」の右傍書）も朱筆で記されている。

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。
天理大学附属天理図書館蔵　編集　天理大学附属天理図書館
解題　大槻信『新天理図書館善本叢書9~11』所収「類聚名義抄　仏・法・僧」，八木書店，2018

二　次の文章に関して、後の問いに答えよ。

第十一節　既然態

既然態は運動性動作動詞に屬する一縱的職能であつて其の表はす動作の全部又は一部の行はれた後に於ける其の動作の効果を表はすものである。その全部の行はれた後を云ふものを全既然又は單に既然と云ひ、一部の行はれた後を云ふものを半既然又は進行と云ふ。

全既然態　全既然態は其の表はす動作の全部完了した後の動作的効果を表はすものである。全既然態は文語にも口語にもあるが、口語に於て著しく發達して居るから先づ口語の例を擧げる。

(一) 表札が「出て居る」。　門燈が「消えて居る」。
湯が「沸いて居らない」。　子供が「寝て居る」。
人が「來ていらつしやる」。　まう「忘れて御出でなさる」。
(二) 表札が「出してある」。　門燈が「消してある」。
湯が「沸して無い」。　子供が「寝かしてある」。

「出て居る」は「出る」といふ動作が全部終結した後に於ける動作の効果の存在を表はす、右の例の「　」は全既然態である。

右の例の(一)の樣なのは單に動作の全部終了した効果を表はすだけで別の意味はない。こういふのは一般的の全既然である。(二)の樣なのは全既然態であるが同時に豫備態であつて其の動作が何等かの必要に對する豫備であるから、こういふのは豫備的の全既然である。尤も其れは既然態としての觀察であつて若し之を豫備態として觀れば既然的の豫備と云ふことになる。

口語の全既然態を示す方法は一般的全既然ならば所要動詞の方法格(……て)の下へ右の例の(一)の樣に形式動詞「居る」(上一段)又はその同義語「居る」(四段)、「いらつしやる」(四段)、御出(無活用)を附け、豫備的の全既然ならば(二)の樣に「ある」(ラ變)又は「ない」(ク活)「御座る」(四段)を附ける。

「居る」(居る、いらつしやる、御出)と「有る」(無い、御座る)とは用法が違ふ。「居る」は所要動詞の主が形式動詞の大主と同一物である時に使ふ。「表札が出て居る」でいへば、「出て」の主も表札で形式動詞「居る」の大主も表札であつて、同一である。(「居る」の小主は「出て」といふ事柄である。)「有る」の方は所要動詞の主と形式動詞の大主と同一物でない時に使ふ。「表札が出してある」で云へば「出して」の主は人であるが「ある」の大主は表札であつて同一物でない。

「居る」は自動性動詞の下にも他動性動詞の下にも使はれ、「ある」は大抵他動性動詞の下へ使れることは
同居人が表札を出して居る。　同居人の表札が出て居る。
同居人の表札が出してある。　…………………………

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦　書）

右の例の……は語が無いことでも分る。こういふ場合に「ある」の大主は即ち所要動詞の他動的客語と同一物である。併し「ある」も自動性動詞の下へ用ゐられぬ場合が無いではない。例へば、

僕は昨夜十分「寝てある」。　　彼の人の所へはちやんと「行つてある」。

こういふ場合には「ある」の大主は概念化されて居ないから語に顯はれない。併し意味には

寝ることいふ事が十分して寝てある。　　行くといふことがして行つてある。

であつて「して」は即ち「寝て」「行つて」であるから、「ある」の大主を概念化させれば「寝ること」「行くこと」である。

「ある」を附けたものは必ず全既然態になるが「居る」の方は動詞の性質に由つて全既然態にも半既然態にもなる。

動作には瞬間的動作と繼續的動作とある。

(一) 知る　持つ　立つ　取る　起きる　寝る……瞬間性

(二) 歩く　走る　讀む　書く　笑ふ　泣く……繼續性

「居る」は瞬間性の動詞へ附けば「知つて居る」「持つて居る」といふ樣に全既然態となるが、繼續性の動詞へ附けば「歩いて居る」「讀んで居る」といふ樣に半既然となる。「知つて居る」は知つた後の狀態の存在をいふのであるが、「歩いて居る」は、歩いた後の狀態の存在ではなく、歩く動作の中途である。「打つ」「蹴る」などの樣な動作は一回だけならば瞬間性であるが、同一動作を反復して行ふ場合には繼續性であるから「子供が犬を打つて居る」などと云へば全既然態である。「讀む」「書く」の樣な動作は本義は繼續性であるが、其の繼續の時間を考へずに一つの動作と見れば瞬間性化される。其れ故

彼の人は本を澤山「讀んで居る」。

などと云へば「人が今本を讀んで居る」などとは違つて全既然態になる。

文語には全既然態を表はす方法が二種ある。

1. この文章は、『標準日本文法』（一九二四年・紀元社刊）という書物からの引用である。この本の著者は『改撰 標準日本文法』（1928年）も出版しているほか、共編で『國歌大觀』も編集している。この本の著者名を答えよ。

2、傍線Aについて、どういうことか、わかりやすく説明せよ。

3、傍線B「半既然」とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

4. この文章には誤植と思われる箇所がある。どの箇所か、なぜそう考えられるのかを説明せよ。

5. 日本語の「時」の表現の研究について、考えるところを述べよ。

6、現代日本語の文体の研究について、考えるところを述べよ。

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学　コース　※解答は別紙（縦　書）

三　左に掲げた資料について、以下の問いに答えよ。

（１）この資料の本文をすべて翻字せよ。

（２）この資料の著者と書名を答えよ。

（３）ここで示されている事象について、その後の研究史をふまえて解説し、さらにその日本語学上の意義を説明せよ。

さて又同音の中にも、其言に随ひて用る仮字異にして、各定まれること多くあり、其例をいはゞ、コの仮字には、普く許古二字を用ひたる中に、子には古字をのみ書て、許字を書ることなく、彦壮士などのコも同じ、メの仮字には、普く米売二字を用ひたる中に、女には売字をのみ書て、米字を書ることなく、姫処女などのメも同じ、キには、伎岐紀を普く用ひたる中に、木城には紀をのみ書て、伎岐をかゝず、トには、登斗刀を普く用ひたる中に、戸太問乃トには、斗刀をのみ書て、登をかゝず、ミには、美微を普く用ひたる中に、神のミ木草の実には、微をのみ書て、美を書ず、モには、毛母を普く用ひたる中に、妹百雲などのモには、毛をのみ書て、母をかゝず、ヒには、比肥を普く用ひたる中に、火には肥をのみ書て、比をかゝず、生のヒには、斐をのみ書て、比肥をかゝず、ビには、備毘を用ひたる中に、彦姫のビの濁には、毘をのみ書て、備を書ず、ケには、気祁を用ひたる中に、別のケには、気をのみ書て、祁を書ず、辞のケリのケには、祁をのみ書て、気をかゝず、ギには、藝を普く用ひたるに、過祷のギには、疑字をのみ書て、藝を書ず、ソには、曽蘇を用ひたる中に、虚空のソには、蘇をのみ書て、曽をかゝず、ヨには、余與用を用ひたる中に、自の意のヨには、用をのみ書て、余與をかゝず、ヌには、奴怒を普く用ひたる中に、野角忍篠楽などの後世はノといふヌには、怒をのみ書て、奴をかゝず、右は記中に同言の数処に出たるを験て、此彼挙るのみなり、此類の定まり、なほ余にも多かり、此は此記のみならず、書紀萬葉などの仮字にも、此定まりほのぼの見えたれど、其はいまだ偏くもえ験ず、なほ考ふべきことなり、然れども此記の正しく精しきには及ばざるものぞ、抑此事は、人のいまだ得見顕さぬことなるを、己始て見得たるに、凡て古語を解く助となることも多きぞかし、

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

早稲田大学図書館所蔵

二〇二四年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本語日本文学コース　※解答は別紙（縦　書）

和漢比較文学

左の文を読み、次の問いに答えよ。

（1）この資料の本文を全て翻刻せよ（訓点は翻刻の必要なし。ただし適宜句読点を施すこと。また漢字は通行の字体を用いること）。

（2）この資料の本文を漢字仮名交じりの書き下し文に改めよ。

（3）ここに記されている内容を現代語訳せよ。

香山館聽子規【增注】湘中別記云香山在縣郭西其水甚香昔年常貢此水民多困弊齊太廢龍湘鄉本謂之湘香蓋由此而名

竇常

楚塞餘春聽漸稀 華陽風俗記杜鵑春至則鳴聞者有別離之苦 斷猿今夕讓霑衣 宜都山川記曰峽中猿鳴行者歌曰巴東三峽猿鳴長悲猿鳴至三聲聞者淚霑衣讓霑衣者謂猿雖非愁人未若今夕子規尤悲也 雲埋老樹空山裏彷彿千聲一度飛

※Web掲載に際し、左のとおり出典を追記しております。

『増註唐賢絶句三體詩法 3巻』（京都大学附属図書館所蔵）部分

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

〔日本語日本文学〕

＊選択分野に○を記入すること。

- 上代
- 中古散文
- 中古・中世韻文
- 中世散文
- 近世
- 近代
- 日本語学
- 和漢比較文学

総点

【「近代」以外の解答用紙】

ここから記入すること

（裏へ続く）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

（次頁へ続く）

ここから記入すること

（裏へ続く）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

日本語日本文学（近代）解答用紙（その一）

1

採点欄

日本語日本文学（近代）解答用紙（その二）

2 ①

2 ②

採点欄

日本語日本文学（近代）解答用紙（その三）

2 ③

2 ④

採点欄

3

日本語日本文学（近代）解答用紙（その四）

採点欄